

8904 私がはじめて天体望遠鏡を買ったときは、・・・

私がはじめて天体望遠鏡を買ったときは、もう四十歳を過ぎていた。ふつうこういうものは、少年時代に、お父さんか伯父さんにでも買ってもらうものだ。でも自分で自分の天体望遠鏡を買って、じつに嬉しかった。自分がその親戚のお金持ちの伯父さんにそれを買ってもらった賢くて貧しい少年のような気持ちになった。その一方ではまた、自分がそれを買ってあげた伯父さんの気持ちになった。私の中で二人の人物がはしゃぎ回っていた。

尾辻克彦『カメラが欲しい』

[許容訳例]

I first bought an astronomical telescope when I was already over forty. Usually, this kind of thing is something a father or uncle buys his son or nephew in his boyhood. Even so, I was very happy to have bought my own telescope by myself. I felt like a clever but poor boy who had been bought one by a rich uncle; and at the same time, I felt like the uncle who had bought one. It was as if two different persons were rejoicing inside me.

[翻訳例]

I was already over forty when I first bought a telescope. Normally, a telescope is the kind of thing you have bought for you in your boyhood by your father, for example, or an uncle. All the same, I was delighted at having bought myself my own telescope. I felt like a clever but poor boy who'd been bought a telescope by a rich uncle. And at the same time, I felt like the uncle who'd bought it. It was as if two different characters were dancing with delight inside me.

■私がはじめて天体望遠鏡を買ったときは、もう四十歳を過ぎていた。(8904)

★「はじめて」は first です。first の代わり for the first time としても間違いではありませんが、これを使うと、この後も何回か買っているような感じになります。

★「天体望遠鏡」は a telescope です。an astronomical telescope でも、もちろん、間違いではありませんが、普通ではありません。

●「・・・ときは」(同時)

「～を買ったときは」は When I first bought ~と前に置くと大抵の場合は、既に了解していることを述べることになると思います。たとえば、When I arrived, he was not at home.と言うと、私がそこへ行ったということは既に分かっていることで、ここで言いたいことは、彼がいなかったということになります。あるいは、When I first met him,・・・と言えば、彼のことは既に話題になっている場合になるわけです。ですから、when・・・を後に置いた方がいいと思います。あるいは、When の代わりに At the time when を使えば「・・・ときは」の「は」に当たり、前に置くことも可能です。

★「もう四十歳を過ぎていた」は I was already over forty ですが、over forty の over の代わ

りに past を使っても構いません。

■ふつうこういうものは、少年時代に、お父さんか伯父さんにでも買ってもらうものだ。
(8904)

★「ふつう」は Usually あるいは Normally でいいです。

◆代表単数の極意「こういうもの」

「こういうもの」は this kind of thing でも間違いではありませんが、「こういうこと」か「こういうもの」なのか曖昧になるので、はっきり「もの」を表す場合は such things か、telescopes and the like とした方がいいと思います。ところで、これらは「こういうもの」を一般論の「総称の無冠詞複数」を利用して表すのですが、最も英語らしい表現は「不定冠詞＋名詞」の「代表単数」です。すでに使われた名詞を一般論的に使う、まさに「こういうもの」に相当します。ここでは telescope を繰り返して A telescope is…です。このような使い方が「代表単数」の極意です。

★「少年時代に」は in your boyhood (days)か、あるいは、when you are a boy としてもいいです。as a boy は Native speaker でも使うと思いますが、厳密に考えると、誰の少年時代かはっきりしないので避けた方がいいでしょう。

★「お父さんか伯父さんに」は、ここは一般的な話ですから、your father or an uncle にすればいいと思います。なお、ここで your uncle とすると、伯父さんが一人しかいないことになりますから an uncle にするわけです。

★「(お父さんか叔父さんに)でも」の「でも」の意味を出すのなら、たとえば、by your father, for example, or an uncle とするか、あるいはもっと軽い感じにするのなら by your father, say, or an uncle とすればいいでしょう。say は会話などでよく使いますが、文章に使ってもかまいません。こういう「～でも」に相当する for example とか say の使い方は覚えておくと便利です。

●「連体修飾節＋体言」(買ってもらうもの)

「買ってもらうもの」は「連体修飾節(買ってもらう)＋体言(もの)」ですから英語では「代名詞(something)＋関係詞節(that is bought for you)」か、あるいは that 以下を that you have bought for you としてもいいと思います。これは have ~ bought (～を買ってもらう)の目的語が前に出たものです。

■でも自分で自分の天体望遠鏡を買って、じつに嬉しかった、(8904)

●「でも」(→「それはそうなのだけれども」)

この「でも」には、単に「逆接」(but)では収まらない主観的判断が含まれています。したがって、副詞的要素を加味して「それはそうなのだけれども」と解すれば Even so とか All the same などがいいと思われれます。ほかに nevertheless も使えます。

★「自分で～を買う」は buy myself ~とか buy ~ (all) by myself でしょう。

★「自分の天体望遠鏡」は my own telescope か a telescope of my own です。

★「(買って)じつに嬉しかった」は I was very happy でも I was very pleased もいいし、あ

るいは I was delighted も感じがよく出ると思います。

◆不定詞と動名詞

「買って実に嬉しかった」は一回のこととして、不定詞を使って I was very pleased to have bought ~でもいいのですが、かなり微妙なところですが、「ふつうこういうものは・・・」に引かれて、一般論としての含みを持たせるなら I was very pleased at having bought ~でしょう。

■自分がその親戚のお金持ちの伯父さんにそれを買ってもらった賢くて貧しい少年のような気持ちになった。(8904)

★「その親戚のお金持ちの伯父さん」の「親戚の」は訳す必要はありません。「伯父さん」といえば親戚に決まっていますから a rich uncle です。なお、日本語では、両親より年上の場合は母方父方に関係なく「伯父」であり、年下の場合は「叔父」ですが、英語では uncle だけです。

◆「それ」の訳

「それを買ってもらった・・・」の「それ」ですが、it にするとちょっとひっかかります。というのは、ここはあくまで想像上の、つまり抽象的な言い方をしているわけですから、の中で特定の telescope を表す it という言葉を使うことにちょっと矛盾を感じるわけです。何か次元の違う感じがするのです。ですから it ではなく one にするか、あるいは a telescope を繰り返した方がいいでしょう。ただし、これは非常に微妙なところで、it を使っても気が付かない人が多いと思います。

★「賢くて貧しい少年」は a clever but poor boy でいいでしょう。なお、A though B としますと、A の方に比重がかかるので、ここでは使えません。

●「連体修飾節+体言」(お金持ちの伯父さんにそれを買ってもらった賢くて貧しい少年)

「お金持ちの伯父さんにそれを買ってもらった賢くて貧しい少年」は「連体修飾節(お金持ちの伯父さんにそれを買ってもらった)+体言(賢くて貧しい少年)」ですから、英語では「名詞(a clever but poor boy)+関係詞節(who'd been bought a telescope by a rich uncle)」です。

★「～のような気持ちになった」は I felt like ~ です。like の次に being を入れる必要はありません。なお、feel like ~ は、たとえば、I felt like a small child [a fool]. (自分が小さい子供[馬鹿者]のように思えた) という場合と、もう一つ「～が欲しい」という意味の場合があります。たとえば、I felt like a sausage. と言うと「私は(細長い)ソーセージになったような気がした」と「ソーセージが欲しかった」の二つの意味が考えられます。これに対して、たとえば、I felt like going on a train. と言うと「電車に乗ってみたいような気持ちだった」という意味になります。ですから、I felt like being ~ は「～になってみたいような気がした」ということになります。

■その一方ではまた、自分がそれを買ってあげた伯父さんの気持ちになった。(8904)

●[また] (並置)

「その一方ではまた」は「またその一方では」のことですから[また]は「並置」ですから and でいいです。

★「その一方では」は、ここでは at the same time でしょう。ここは二つのことが並列して起こっているわけではないので while は使えません。

●「連体修飾節＋体言」（それを買ってあげた伯父さん）

「それを買ってあげた伯父さん」は「連体修飾節（それを買ってあげた）＋体言（伯父さん）」なので、英語では「名詞(the uncle)＋関係詞節(who'd bought one)」となります。前文で述べた uncle を受けて the uncle とすることになります。

★「～の気持ちになった」は、すでに説明したように I felt like (being) ~です。

■私の中で二人の人物がはしゃぎ回っていた。(8904)

★「私の中で」は inside me の他に in me でもいいでしょう。

★「二人の人物」は日本語には出ていませんが different を加えて two different persons,あるいは persons の代わりに two different characters とするといいでしょう。

★「はしゃぎ回っていた」は were rejoicing とか were dancing with delight です。dancing の代わりに jumping とか leaping も with delight を付ければ使えます。

●文解釈と文構造

「私の中で二人の人物がはしゃぎ回っていた」は「私の中で」とあるように、実際に「はしゃぎ回っていた」わけではないので、「まるで・あたかも・・・のようだった」が言外に含まれています。これを加えないと、「私の中で」が出ません。それで It was as if...を文頭に加える必要があります。It was as if two different characters were dancing with delight inside me.とか It was as if two different persons were rejoicing inside me とします。